

日本人とスキーのかかわり(スキー技術伝来前)

年	主な出来事
元禄 14 1701	大阪商人の伝兵衛がロシアでスキー (ストー) を履かされる
文化 6 1809	間宮林蔵が「北蝦夷図説」でスキー (ストー) を紹介
// 7 1810	中川吾郎治がロシアの捕虜となりスキー (ストー) を履かされる
明治 26 1893	山岳スキー家河合七郎がスキー (ストー) を履いて遊ぶ
// 28 1895	三瓶勝美が札幌郊外江別太で樺太スキーを履く 松川敏胤大尉が日清戦争凱旋時スキーを持参した
// 29 1896	雑誌「小国民」に「スキ」馳け (ジャンプ) が紹介される
// 35 1902	神戸でP・オッテセンが取り寄せたスキーを履く ノルウェー政府からスキーが寄贈 イタリア駐在の蔵田武官からイタリア軍隊スキーが贈られる
// 36 1903	亀岡泰辰が「偕行社記事」でサイ (スキー) を紹介
// 37 1904	青森県野辺地町の野村治三郎がスキー 2 台を輸入
// 39 1906	英国のS・A・デルメラトクリップがスキーを持って来日
// 41 1908	東京高等師範学校の永井道明がスウェーデンでスキー技術取得
// 42 1909	北海道大学のハンス・コラーがスキーを北大予科生に見せる 北大予科2年山根甚信がスキーを履く 旭川第7師団長上原勇作中将がスウェーデン式と樺太式スキーを取り寄せる 横浜シーメンス商社のクラッツァーが富士山麓でスキー滑降
// 43 1910	上原中将の贈ったスキーを見本に馬そり屋で20台製造、北嶺小学校のスキーがはじまる

「日本スキー・ほんとうの源流」より抜粋



オーストリアのスキーを参考に飯山で製造された当時のスキー (ふるさと館所蔵)



飯山に初めてスキーをもたらした市川達讓の肖像



上越市高田金谷山女山山頂のレルヒ銅像



レルヒ少佐らの指導による民間スキー講習会の様子 (明治 45 年 1 月 21 日)

1 日本スキー発祥前史
スキーを履いた日本人

元禄 14 年 (1701 年)、航海中に遭難し、ロシアに漂着したのち捕虜になった大阪商人の伝兵衛は、移送の際歩く道具としてストー (カンジキ) のようなロシア式スキー) を履かされました。これが日本人によるスキーの初試乗であると考えられています。



ストー (露式カンジキ) 「北蝦夷図説」より

国内でのスキー初試乗者は、山岳スキー家の河合七郎で、明治 26 年 (1893 年) 頃のことです。河合は「出稼ぎでロシアに行った漁民からストーというアザラシの皮を張ったスキーを土産にもらい、それで遊んだ」と記録しています。

明治 44 年 (1911 年) に、高田 (現上越市) にスキー技術が伝来する以前にも、北海道をはじめ多くの場所や文献でスキーが紹介されていますが、広く一般にスキー技術が伝えたことから、現在上越市が日本スキー発祥の地とされており、明治 44 年 1 月 12 日が日本にスキー技術がもたらされた日となっています。

2 長野県スキー発祥の地
飯山へのスキー伝来

飯山で最初のスキー

オーストリアのフォン・レルヒ少佐が高田歩兵第五十八連隊に赴任し、スキー講習会が開始されたのが明治 44 年 1 月 12 日 (日本スキー発祥の日)。それから約 1 年後の明治 45 年 1 月 22 日、高田師団の乙種スキー講習会に参加した飯山中学校 (現飯山北高校) 教諭の市川達讓らは、2 台のスキーを購入し飯山に持ち帰っています。

愛宕町の妙専寺に住んでいた市川は、翌日 1 月 23 日に自宅からスキーを履き、境内の大門の坂を家族の見送る前で滑走し、町へ出て城山へ登り、中学校側の傾斜地を利用して滑走したと手記に残しています。

城山での滑走を終えた市川は、校門前で寄宿生などたくさんのお迎えを受けていますが、そのときの心情を「雪を征服した嬉しき記念として、今なお忘れかねております。」と述べ、それまでの雪による困難な生活からの開放を予感させる言葉を残しています。

この出来事が飯山における最初のスキーです。

スキー行軍隊の来飯

明治 45 年 1 月 23 日、市川達讓が飯山において最初のスキー滑走を行った当日、高田第十三師団において組織されたスキー行軍隊は、スキーを雪国における生活用具あるいはスポーツとして各地に普及させるべく、田口から斑尾山麓を越え大川を通り飯山中学校に到着しました。

行軍隊がスキー滑走の実演を行ったのは翌日の 1 月 24 日、会場となった片山稲荷西北側の斜面周辺には、スキー滑走を見ようとする群衆で埋め尽くされましたが、当日は悪天候のため数十回の滑走のみで終了したと高田新聞では報じています。

しかしながらこのスキー実演が、飯山地方へのスキー普及のきっかけとなったことは間違いなく、市川達讓の依頼もあり、同年には家具職であった小賀坂浜太郎や伊村栄蔵がスキー製造を開始しています。また、教育機関でも敏感に反応し、特に飯山小学校では、翌シーズンには体育授業用の貸スキーが備えられました。(次回につづく)



飯山の地にスキーが伝わってから 100 年の時が経とうとしています。

かつて雪に埋もれるように生活してきた先人たちは、それまでの雪による閉塞感から開放され、スキーを通じた観光や産業、スポーツなどを発展させてきました。

そこには、ふるさと飯山の発展を願い、さまざまな困難を乗り越えてきた人々の歴史がありました。

飯山市では 100 周年を迎える来年 1 月を前に、記念イベントやジャンプ台の整備改修、記念誌の発行など様々な事業を計画しています。

広報飯山においても、随時情報をお伝えするとともに、その歩みを振り返り、さらなる百年を展望していきたいと思えます。

発行人：飯山市長 足立正則
編集：飯山市役所 総務部 庶務課秘書 広報係

〒 389-2292
長野県飯山市大字飯山 1110-1

電話：0269-62-3111
FAX：0269-62-5990

ホームページアドレス
http://www.city.iiyama.nagano.jp

E-mail
kikaku@city.iiyama.nagano.jp

もくじ

飯山スキー百周年・・・・・・・・・・・・・・・・	2・3
市単独新経済対策 (平成 23 年度当初予算事業 (案))	4
いいやま雪まつり・かまくら祭り開催	5
信州いいやま旅プラン「飯山旅々」スタート	6
公募委員を募集します	7
犬の登録と狂犬病予防注射について	8
デジタル化の準備はお済みですか	9
長野県議会議員一般選挙のお知らせ	12・13
農業者戸別所得補償制度について	13